

果実の肌荒れ防止・日焼け防止に！！

前半は「ビタカルシウム55」+7月以降は「こかげ」に切り換えます！

(上記2材の効果を高めるためには「グッドパートナー38」との混用散布をお勧めします。)

こかげ®

肥料登録番号 生第 92080 号

「こかげ」は水酸化マグネシウムと木粉の混合物です。水酸化マグネシウムは水への拡散性が非常に良く（水に溶けるのではなく、懸濁状態で均一に拡散するということ）、果面に均一に付着し、紫外線をカットするため、日焼け防止に効果があります。

本材は雨に落ち易いため、7月中旬以降に散布しても果面が汚れにくい材です。

7月上旬までは紫外線をカットすると同時にカルシウム補給が行える「ビタカルシウム55」を使用し、その後は汚れの少ない「こかげ」に切り替えてください。



【お客様の声】

(青森県板柳町りんご A様)
日焼け防止効果は十分ある。

(長野県上田市りんご B様)
炭酸カルシウムと同程度の効果がありながら、
汚れが落ちやすいのが良い。
特にりんごの「こうあ部」の汚れが目立たず助かる。

(福岡県八女市みかん C様)
温州みかんに2回散布したところ、しっかり効果が見られた。
(1回だと不十分であった。)

果実のくぼみ=こうあ部(梗窪部)



「ビタカルシウム 55」 及び 「こかげ」 の使用時期と使用倍率

りんご、落葉果樹一般に対しては幼果期～7月初中旬の間は日焼け防止効果の高い「ビタカルシウム 55」を使用します。しかし、「ビタカルシウム 55」を使い続けていると果実のくぼみ（こうあぶ＝梗窪部）に成分の石灰が沈着し汚れが取れなくなることがあるため7月中旬以降は汚れが残らない日焼け防止材「こかげ」に切り換えて下さい。柑橘類に対しては始めから終わりまで「こかげ」で対応して下さい。

対象作物	商品名	使用回数	使用時期	使用倍率	希釈液の作り方	保証成分 (%)
りんご	※ ビタカルシウム 55	2～3回	幼果初期 ～ 7月上旬	90 ～ 180倍	水 500～1000ℓ に対して「ビタカルシウム 55」1 袋 (5.5kg) です。 本材はダマにならずよく拡散しますので、水を流しながら、直接 SS 投入口に投入して下さい。 <u>この時期の「グッドパートナー 38」^{***}はサビ果の原因になるので使用しないこと。</u>	アルカリ分 50.5
落葉果樹一般	こかげ	3～7回	7月中旬以降（汚れ回避の為「こかげ」に切り換える）	400 ～ 500倍	水 500ℓ に対して「こかげ」1～1.25kg です。 本材はダマにならずよく拡散しますので、 事前にバケツに溶かす 、水を流しながら、直接 SS 投入口に投入して下さい。 その後、「グッドパートナー 38」 ^{***} 500ml を加用して下さい。	＜溶性苦土 29.0 内水溶性苦土 3.0
柑橘類	こかげ	3～5回	8月上旬～ 9月中旬	400 ～ 500倍	水 500ℓ に対して「こかげ」1～1.25kg です。 本材はダマにならずよく拡散しますので、 事前にバケツに溶かす 、水を流しながら、直接 SS 投入口に投入して下さい。 その後、「グッドパートナー 38」 ^{***} 500ml を加用して下さい。	

- 本材は、雨で落ち易くしてあるため、降雨後は必要に応じ再度散布して下さい。
- 高温が続く場合は適宜散布回数を増やして下さい。

※ 「ビタカルシウム 55」の成分 (%) 炭酸カルシウム 95.3% 内水溶性カルシウム 2.7%
 *** 「グッドパートナー 38」はパラフィンワックス 38%入りの液肥です。果面を保護し日焼け防止作用があります。

● 希釈時の注意事項

【SS を使う際の留意点】

- ・タンク入口のこし網に詰まった物は取り除いて下さい。＜内部の吸込みこし器（ストレイナー）周辺に原料の 1 つである木粉が詰まる恐れがあるからです。＞
- ・ストレイナーが詰まり圧力が上がり難くなった場合は作業を即座に中断し洗浄を行って下さい。

【動噴を使用する際の留意点】

- ・薬液を調合する際は規定の倍率（400～500倍）になるように作って下さい。
- ・調合中また散布するまでの間も攪拌機は動かし続け、散布中もタンクを攪拌しながら作業するようにして下さい。
- ・また、ポンプのストレイナーを外してもお使いいただけます。その際はキリナシノズルをお使い下さい。

● 肥料・農薬との混用可否：「こかげ」はすべての肥料・農薬と混合可です。

包装形態「こかげ」（2kg ポリ袋入り ×10 袋／ケース）